

# 会 議 録

## 1 会議名

平成26年度第6回阿賀野市行政改革推進委員会

## 2 開催日時

平成26年10月21日（火） 午後1時30分から午後3時00分まで

## 3 開催場所

阿賀野市役所「402会議室」

## 4 出席者（傍聴者を除く。）の氏名（敬称略）

- ・出席：大淵委員長、市村委員長職務代理、太田委員、荻委員、小野里委員、音田委員、小林委員、菅井委員、関口委員
- ・事務局：市長政策課（中野課長、菅原課長補佐、中野主任）

## 5 議題（公開・非公開の別）

### （1）議題

- ① 委員長の互選について（公開）
- ② 委員長職務代理の指定について（公開）

### （2）その他

- ① 阿賀野市審議会等の会議の公開に関する要綱について（公開）
- ② 今後の予定について（公開）

## 6 非公開の理由

なし

## 7 傍聴者の数

0人

## 8 発言の内容

### （1）議題

#### ① 委員長の互選について（公開）

事務局： 委員長は、委員の互選により選ぶこととなっている。委員長については、会務を総理するということで、主には会議の議長、また、とりまとめでの総括をしていただくといった役割があり、大変な職務をお願いすることとなるが、どのように取り計らったらよいかお伺いする。

委員： 委員の中で委員長に立候補したい方がいなければ、前委員長である大淵委員にお願いしたい。

事務局： 前委員長である大淵委員を推薦するといった意見であったが、そのほか意見はないか。

～「異議なし」の声～

事務局： 全会一致で大淵委員に委員長をお願いすることとしたい。

## ② 委員長職務代理の指定について（公開）

事務局： あらかじめ委員長の指定により、委員長の職務代理を置くこととしている。委員長より指定をお願いしたい。

委員： 行政改革においては、女性の視点が重要となってくる。市村委員にお願いできないか。

委員長： では、市村委員を指定することとしたい。

事務局： 委員長の指定により、市村委員の職務代理をお願いすることとしたい。

## （2）その他

### ① 阿賀野市審議会等の会議の公開に関する要綱について（公開）

（事務局より、当市の審議会等における会議の公開についての考え方、及び当委員会における公開の取扱い内容について説明）

委員長： 議事録は、全委員に配っているのか。

事務局： 確認の際には、出席いただいた委員全員に配っている。内容については、各委員の方からそれぞれ確認してもらっている。

委員： 傍聴定員3人とあるが、会議の開催については、どのように連絡をしているのか。

事務局： 周知の方法については、条例、規則などを周知する掲示場が本所と各支所の4箇所にあるが、そこに掲示をして周知をする形をとっている。また、市のホームページにも審議会等の公開に係るコーナーを設け周知しているが、実際に関心のある方は、そちらを見て傍聴するケースが多いと思われる。本来であれば、広報紙での周知が望ましいが、締切の関係上、1か月、場合によっては、2か月近く以前より会議の開催日程を確定させる必要が出てくる都合もあり、現状のような運用とさせていただいている。

委員長： 事業評価の場合は非公開としているが、利害関係がある事業の場合、評価の場である程度自由な発言をするためにも、非公開もやむなしと考えている。ただ、今日のような事務的な会議については、非公開にする理由はなく、市民の

方にも積極的にその内容を明らかにしていく必要はある。今後も、このような形で進めていきたい。

## ② 今後の予定について（公開）

（事務局より、今後の事務事業評価に係る取組み予定、次期総合計画の策定について説明）

委員長： 前半については、事務事業評価に係る取組みの進捗状況と今後の予定、後半については、行政評価を何のためにやるのかという部分についての話であったが、こういった市にしたい、まちにしたいといったビジョンがないと、どこを削るのかの“ものさし”がなく、評価が回っていかないといった問題点があるとのことで、その部分について、平成28年度までに計画を立てていきたいという話であった。

委員： 現在の総合計画が来年度をもって終了するとのことであるが、現在の総合計画は何年計画であったのか。

事務局： 10年計画となっている。16年度と17年度の2か年で策定作業を行い、18年度からスタートしている。

委員： 28年度からの計画も10年計画を予定しているのか。

事務局： 現在は、9年の計画期間を予定している。

委員： もっと短いスパンでの計画は考えられないか。

事務局： 前期計画と後期計画ということで、基本的には市長任期である4年スパンで、任期に合わせる形でのサイクルを予定している。市長のマニフェスト、公約についても、計画に反映させる必要があるといった考え方である。

委員： 9年、10年の計画では、特に阿賀野市の場合は財政上どうなるかわからない。計画が続くのかといった不安があるのと同時に、28年度からは、事業評価をやる場合においても、計画を参考としていかなければならない。また、計画は広報等で周知する予定はあるのか。

事務局： 周知は行う予定である。また、基本構想と基本計画といった言葉が出てくるが、基本構想については、市の目指すべき大枠の姿など抽象的な内容となるが、その部分を9年間の計画、基本計画部分を4年スパンとし、基本計画部分については、行政評価の結果を踏まえ、毎年、見直しをしていくことを考えている。

事務局： 民間企業であれば、長期計画10年ということになると、市場環境も変わり意味を成さないものとなる。短期、中期ということで3、4年が一般的な計画期間となっているようである。当市においても、それに近い形で考えていこうというものである。

委員長： どんな計画でも10年経てば陳腐化する。あまり長い長期計画では、結局すたれてしまう。

- 委員： 行政改革ということで、議員であれば、その年度の予算支出の明細を見ることができるが、その部分について、委員は見ることはできないのか。それを見れば、事業の必要性など一遍にわかるのではないか。
- 委員長： 事業評価の前に、当初予算の概要といった、議会にも出る資料を配ってもらっている。議員さんの意見と我々の意見が合致するとは限らないが、我々は、また、議員さんとは違う視点で見ていく必要があるものと思われる。
- 委員： そういったものがあれば、無駄なもの、不必要なものがある程度見分けられると思う。
- 事務局： 新任の委員の方には、今年度の当初予算の概要をお送りすることとしたい。また、議会に提出しているものとしては、「主要施策の成果と決算概要」といった書類もある。これについても、改めて送付させていただくこととしたい。
- 事務局： 新任の委員の方もいらっしゃるので、補足させていただきたい。平成17年度から事務事業評価を実施しているが、24年度までに延べ900の事務事業を評価している。これにより削減をした金額が約14億円弱といった状況となっている。特に合併した当初については、非常に多くのものを削減してきた。近年では、削減額そのものは少なくなっているが、合併当初に、大きな金額を削減してきたといった経緯がある。
- 委員長： 合併当初は、4か町村の事業が重なり合う状況もあって、1つを残して3つを削るといったこともできたが、ここに来ると、ある程度、絞り込んだものが残っていて、雑巾も乾いてきているという状況もあるかもしれない。事務的な確認となるが、次回の会議の予定はどのように考えているか。
- 事務局： 次回は、来年度に入ってからとの予定である。今年度の事務事業評価については、市長の諮問からスタートしたが、来年度についても事務事業評価に係る諮問の時期に合わせ、スタートしたいと考えている。
- 委員長： 今年度の答申を受けての所管部署での検討、評価結果の取扱いの問題となるが、どのようなスケジュールで取組みを進める予定か。
- 事務局： 現在、所管課から対応方針の素案が集まり始めている状況である。今後、部長を含めての庁内での検討、市長との調整といった作業を予定しているが、事務局の予定としては、広報1月号で評価結果への対応方針について公表したいと考えている。広報1月号の締切は、12月のあたまとなっているため、11月いっぱい、評価結果への対応という部分を固めたい。
- 委員長： 広報1月号ということであるので、委員の方には、評価の結果に対して市がどう回答をするのかという部分について見ていただきたい。また、新任の委員の方においては、どういう事業を評価して、どのような意見がついてという部分が広報11月号に、また、その意見に対する市の対応内容が広報1月号に載るということであるので、これからやることの内容がある程度わかってくるものと思われる。現在の予定では、次回の会議の開催は来年度ということであるが、委員のみなさんで、年度中での開催要望などはないか。

委員： 予算の内容をみながら、評価の対象とするべき事業を決めなければならないが、次回が来年度ということであるが、その前にその点を決めていただかないと、また次回も頭が空っぽの状態では臨まないといけない。新任者の取組み方として、どのようにしていけばよいか。

委員長： 年度末前に概要説明をやった方がよいのか、年度が明けてから、今年度やることの説明を始めた方がよいのか、どちらがよいか。

委員： その点を事前に指導していただければ、後々楽になってくる。

委員： 時期は委員長に一任したいと思うが、計画があつて、その結果がどうであったのか、その点を踏まえて取組みを進めていただきたい。

委員長： 9月が委員の切り替えの時期になっているが、行政は予算で動いているため、4月スタート、3月終わりとなるが、これを委員の任期に合わせると、全く白紙の状態では委員も動かなければならないということで、9月を切り替えの時期にしたものと思われる。9月に選任されると、事業評価で実際に動く部分では、来年度の8月ということになる。評価する事業については、委員会側で選ぶのではなく、行政側から外部の目を通してもらいたい事業ということで、いくつか示されることとなる。その行政側の準備期間が、来年度の4月から7月くらいまでの期間になってくるが、準備された内容について、行政側からのレクチャーや打合せの会議があり、8月に事業の評価を行うこととなる。その結果を9月に答申として市長に提出するといった流れとなっている。そして、今の時期は、その結果に対する対応を行政側で検討しているという時期になっていて、その結果が、1月の広報に載るといったサイクルとなっている。よって、9月に選任されても、評価については、来年度のスタートまでやることがないといった実情となっている。その間に、次回に向けての勉強をするにはとのことであるが、市全体の予算はどうかといった点について、3月議会用の当初予算の概要は、その時期に委員にも配布されてくる。

事務局： 例えば、今年度の事務事業評価の流れについて、こういった資料を提供し、こういった様式を使って評価をいただいたという点についての説明はできる。ただ、そういった過去の内容の説明のみの場として会議を設けることが適切かといった部分もある。会議をやるとするのであれば、今後の評価のやり方自体をどうするかといった点について、御意見を頂戴するような場とする必要もある。

委員長： 事業の選択について、委員側から意見を出す機会は設けられないか。

事務局： かねてからの課題であるが、例えば今年度の評価の実施にあたっては、諮問の前に、対象事業の候補案ということでお示しして御意見を頂戴した経緯がある。しかし、最終的に市長が諮問を出すといった段階で、市長からの指示もあり、候補案から内容が変わってしまい、御意見を反映することのできない状況となってしまった。御意見を伺う機会を設けること自体は問題ないが、その後の反映といった観点からは、実際には、機会を設けてもどうかのかといったところが、事務局としての正直な感覚である。

委員長： 確かにたたき台の段階では、民生部の事業が多い内容であったが、諮問の段

階では、商工観光課の事業が多いという状況になってしまったといった経緯はあった。次回に向けての手当てとしては、当初予算の概要の配布と併せ、前回の評価の概要について、新任の委員の方にお配りすることとしたい。今日の会議については、委員の選任、顔合わせということでもあったが、2年間よろしくお願ひしたい。今日は、これで終了としたい。

## 9 問い合わせ先

阿賀野市役所総務部市長政策課企画経営係

TEL : 0250-62-2510 (内線 261)

E-mail : shichoseisaku@city.agano.niigata.jp